

巻頭言



会長就任にあたって†

水野 幸男



このたび、はからずも多数の会員の皆さまのご推挙により本学会会長の重責を担うことになりました。以前、理事を務めましたので、学会運営の状況にある程度は心得ているつもりですが、会員数3万人を超える大規模学会となった現在、学会運営も一つの変革期を迎えていると感じます。幸いなことに、これまで本学会の発展にご尽力くださった諸先輩方が築いてくださった伝統があり、学識経験の豊富な両副会長を始めとする理事役員の方々、および練達の事務局の方々のご助力もあります。これらに加えて、会員の皆さまのご協力を得て、本学会発展に全力を尽くす所存です。よろしくお願ひ申し上げます。

いま情報処理はかつてないほどの変革期を迎えています。情報処理システムは社会や事業の中核に位置付けられ、高度に戦略的な機能を果たすことが要求されるようになり、質的变化が要請されています。それに伴って、高速ネットワークシステムを基盤とした分散コンピューティング、利用者が容易に操作できるヒューマンインタフェース、システムを柔軟に、かつ迅速に構築できるシステム構築技法が強く求められています。たとえば、マルチメディアを駆使した高度なアプリケーションシステムが重要になっています。いずれをとっても、対応すべき多くの技術課題が含まれており、本学会の果たすべき役割もますます重要になってきています。

このような状況を踏まえて、学会のあるべき姿を皆さまと共に追求し、より発展させることが本学会の課題であると考えます。

学会の運営は、会員あるいは研究会を単位とする「個」の自主性と学会全体の協調という見地から、個の独自性・独創性を尊重しつつ、全体との調和を図るホロニックなシステムであるべきであると考えます。この点に関しては、企業経営と共通する点も多く、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。

情報処理において、これまでのような技術の改

善・改良を中心とした process innovation から、画期的な新製品・新技術を創生する product innovation がより重要になってきています。そのためには、特に独創性のあるソフトウェア技術者の育成が必要となります。本学会の研究会活動などでの自由・闊達な討議などを通じて、それに貢献できると思ひます。技術者育成の観点からも、研究会活動をさらに充実していきたいと思ひます。

本学会の会員は大学・研究機関の研究者と企業などの技術者として構成されています。情報ネットワークの効果的な利用により、会員間のネットワークが確立され、人と人との交流を促進するメディアとしての役割を、本学会が果たすことを期待します。

また、情報技術の標準化では、製品化後の事後の標準ではなく、製品ができる頃には標準化されているという事前的標準が必要になってきています。このためには、研究開発活動の中に、標準化を議論しながら研究開発を進める同時平行的なアプローチが不可欠となります。当学会では従来から積極的に標準化活動に取り組み、多くの成果をあげてきました。今後とも、標準化活動と研究開発活動との有機的結合を図っていききたいと思ひます。

現在学会では、会員数の増大、活動分野・領域の拡大、新雑誌発行の検討、研究会活動の活性化、財務基盤の確立など多くの課題があります。会員数の問題については、的確でスピーディな情報発信を行い、魅力ある学会作りを進めていききたいと思ひます。

特に、会員の多数を占めている SE、プログラマ等の実務家に役立つ学会活動を積極的に推進することが急務であると考えます。また、情報関連の学会との連携を強化し、業際的・学際的な新分野での活動を促進することも重要であると思ひます。

これらの課題を解決していくためには、役員の方々はもとより、会員の皆さまのご協力が必須です。本学会のより一層の発展のために、皆さまのご支援・ご協力を重ねてお願ひ申し上げます。

(平成5年5月20日)

† 本学会会長 日本電気(株)